

番号	✓	卒後研修必須	タスク	方法
1		○	側頭骨CTの解剖が説明できる	記述
2		○	副鼻腔CTの解剖が説明できる	記述
3		○	頸部CTの解剖が説明できる	記述
4		○	携帯耳鏡を用いて鼓膜の観察ができる	自己
5		○	鼻鏡を用いて鼻内の観察(下鼻甲介、鼻中隔)ができる	自己
6		○	舌圧子を用いて口腔内、咽頭を詳細に観察できる	自己
7		○	手順に沿って適切に手洗いでできる	観察、他者
8		○	ガウン、手袋の着用が清潔にできる	観察、他者
9		○	注射、切開、結紮、縫合などの基本手技ができる	実地
10		○	主訴、現病歴、既往歴などの問診が適切にできる	観察、自己
11		○	問診を基に問題点を抽出し、鑑別疾患、必要な検査を挙げることができる	観察、自己
12		○	頸部を触診し、耳下腺、顎下腺、甲状腺を触知できる	観察、自己
13		○	頸部腫瘍を触知した時に適切な表現で説明できる	観察、自己
14		△	嗅覚検査の種類と目的を説明できる	観察、自己
15		△	聴力検査の種類と検査の目的を説明できる	観察、自己
16		△	純音聴力検査、音叉による検査が施行できる	観察、自己
17		△	内視鏡を用いて声帯が観察できる	実地
18		△	超音波を用いて頸部の観察ができる	実地
19		○	担当症例の経過をカルテ、検査結果、診察により把握できる	観察、自己
20		○	把握できたデータを基に必要な処置、検査、投薬などを提示できる	観察、自己
21		○	症例提示のためのプレゼン資料を作成できる	観察、他者
22		△	ダミーを用いて鼻内視鏡の基本手技ができる	実地
23		○	平衡機能検査の種類と目的を説明できる	観察、自己
24		○	注視眼振検査、立ち直り検査、足踏み検査が施行できる	観察、自己
25		○	耳鼻科救急疾患の症候を述べ、対処法を説明できる	口述、自己
26		○	舌骨、甲状軟骨、輪状軟骨の位置が触知できる	観察、自己
27		○	資料を基にわかりやすく、説得力のあるプレゼンテーションができる	観察、他者
28		○	質問事項に明確に回答できる	観察、他者